

## 学位審査結果報告書

学位申請者氏名 弘中 早苗

学位論文題目 Association between oral, social, and physical frailty  
in the community-dwelling older adults

(地域在住高齢者におけるオーラルフレイル,  
社会的フレイルと身体的フレイルの関係)

審査委員 (主査) 藤井 航



(副査) 大渡 凡人



(副査) 角舘 直樹



### 学位審査結果の要旨

多面的な口腔機能低下の蓄積であるオーラルフレイル (Oral frailty, OF) が要介護状態の予測因子であることが明らかになってきている。介護予防のために、OFの関連因子を明らかにしてOFの対応方法の確立につなげることが重要であると考えられる。また、複数の社会性の低下の蓄積である社会的フレイル (Social frailty, SF) と要介護との関連についても報告がある。OFとSFには密接な関係があると考えられるが、その関係性については明らかになっていない。さらに、身体的フレイル (Physical frailty, PF) を含んだ多面的な概念であるフレイルへの効果的な対応を将来検討するため、本研究は地域在住高齢者を対象に、OF, SF, PFの関係性を明らかにすることを目的としている。

65歳以上の地域在住高齢者 682名 (平均年齢  $73.3 \pm 6.6$  歳, 男性 267名, 女性 415名) を対象とした。口腔機能, 社会性, 身体機能, 栄養状態, 認知心理的機能, 既往歴, 服薬状況について調査した。OFの関連因子を検討するために独立変数にSF, PFを含め順序ロジスティック回帰分析を行い、フレイル同士の関係性を推察するためにパス解析を行った。

OF該当者は65名 (9.5%) であった。ロジスティック回帰分析の結果、社会性の低下, 身体機能低下, 栄養状態の低下, 薬剤数の増加がOFと有意に関連していた。パス解析の結果、SFはOFへ直接的に関連しており、OFとSFはそれぞれPFへ直接的に関連していた。OFが、身体機能低下だけではなく社会性の低下や栄養状態の低下といった様々な健康状態を表す指標と関連したことから、健康維持のためにOFを早期に発見し、多面的に対応することの重要性が示唆された。また、口腔機能低下と身体機能低下の背景に、社会性の低下がある可能性が示された。今後、口腔機能低下へ対応する際は、社会性についても評価し、対応する必要があると考えられた。

結果から本論文は、OFへの適切な対応方法を確立するための重要な根拠の一つになることを示唆した、非常に有意義な論文である。本学位審査においては、主査と副査2名による公開審査における質疑応答も概ね適切な回答を得た。審査委員会における合議の結果、本論文の内容は学位論文として価値あるものと判断した。